

松島まつしま
(岩溪裳川いわたにしゅうせん)

水寺茫茫日暮鐘 驚濤萬丈盪詩胸

海龍歸窟金燈滅 雨送余腥入亂松

解説 日本三景の一つ、松島に遊んだときの作。

水寺すいじ 茫茫ぼうぼう 日暮にちぼの 鐘かね

語釈 ※松島 宮城県宮城郡、仙台湾の支湾一帯の景勝地。

※水寺 水辺の寺。瑞巖寺ずいがんじをいう。 ※把筵 広く遠いさま。

驚濤きょうとう 万丈ばんじょう 詩胸しきょうを 盪うごかす

※驚濤 さままく大波。 ※盪詩胸 詩情を激しく起こす。盪はゆりう

こかす。 ※窟 いわや。岩穴。竜の住む岩あな。 ※金燈 金色に輝く灯。

海中の鬼火で、竜が捧げるといふ。 ※余腥 あとに残るなまぐさい臭気。竜の体臭のなごり。 ※乱松 入りまじっている松。秩序なく生えている松。

海竜かいりゆう 窟いわやに 帰かえつて 金燈きんととう 滅めつす

通釈 海辺の瑞巖寺の夕ぐれの鐘が広々と果てしない海上に響きわた

雨あめは 余腥よせいを 送おくつて 乱松らんしように 入いる

り、さかまく万丈の大波は、わが詩情を激しく揺り動かす。海竜もい

わやに帰って、輝く竜灯も消えてしまい、真つ暗な夕闇を、雨なまぐさいが腥い竜の臭いのなごりを送って、島々の入り乱れた松の木立に吹き込んで

いる。